

2262

CZ
392
022

舜平編纂

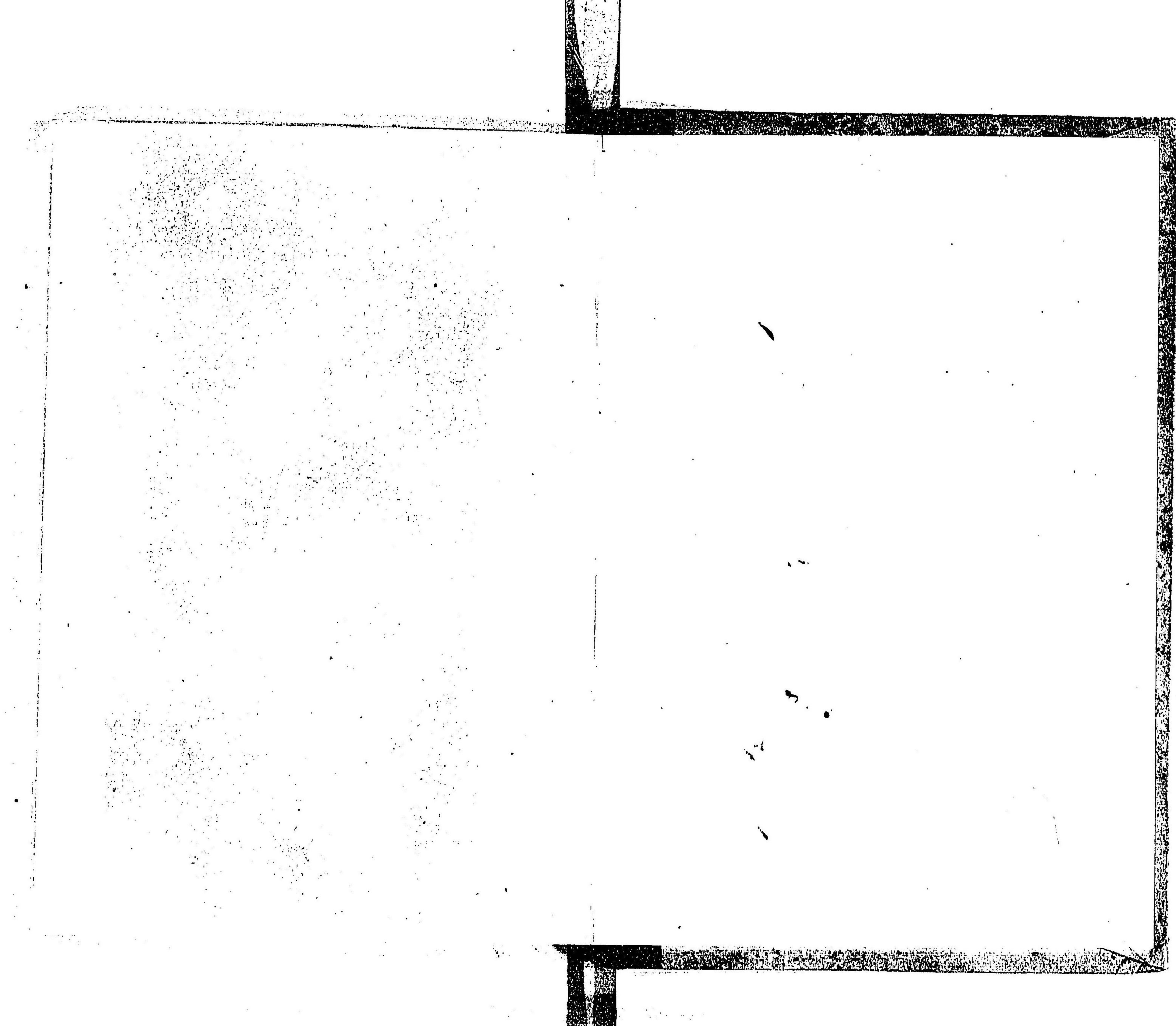
禁電子式複写

續編

大日本
帝國
議
會
必
携

明治十八年
第三月新刊

日新書齋藏



特62
146

彈舜平編纂

續編

大日本
帝國

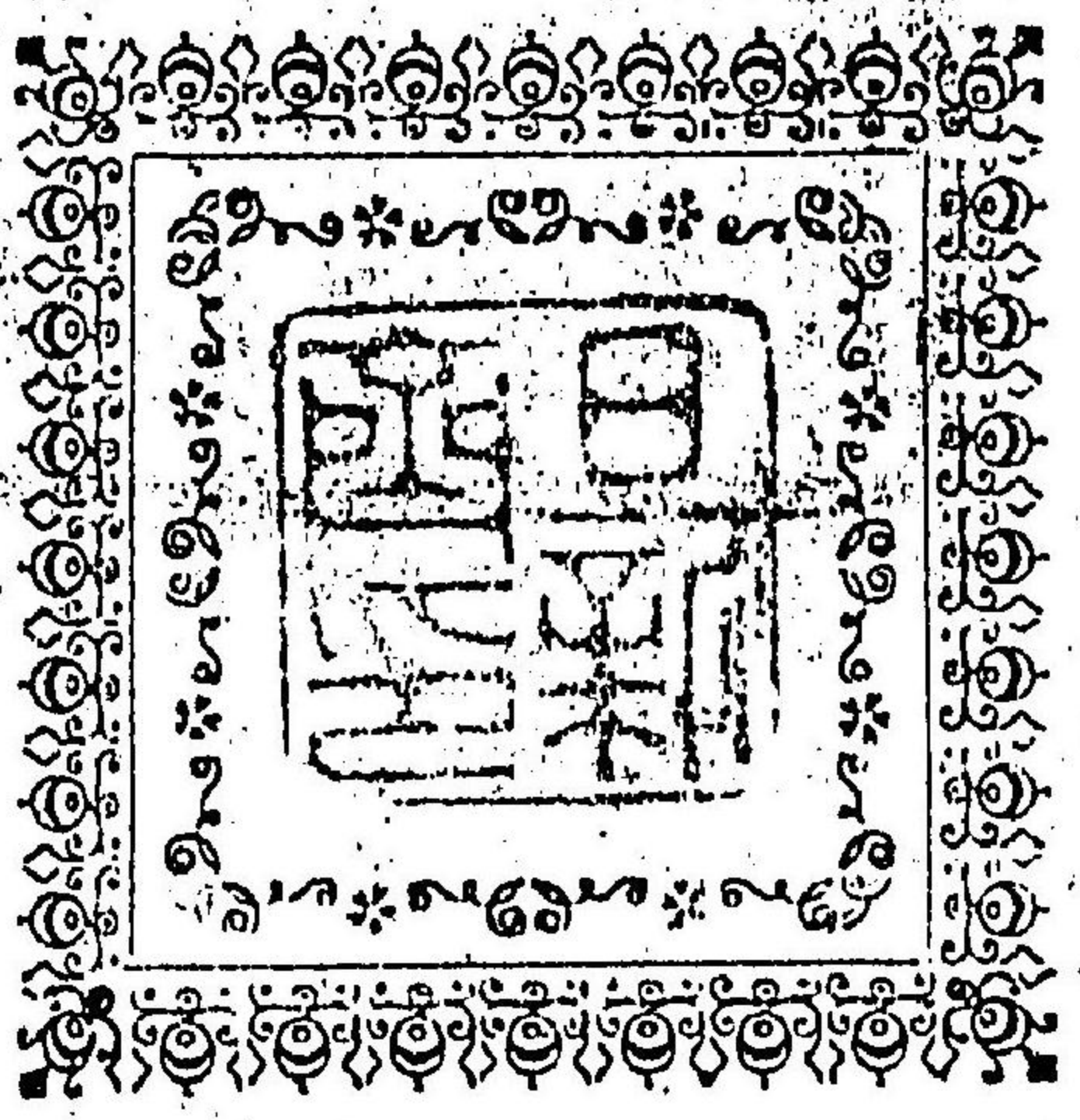
議會公牘

明治十八年
第三月新刊

日新書齋藏

~~C2~~
391
043

C2
392
022



大日本
帝國議員必携篇

一 本篇ハ正編發刊後明治十六年三月ヨリ同十八年三月迄ノ間
ノ布告、布達、達、伺指令、及參事院裁定書、等ヲ編纂ス

一 正編目次中ノ内追年達アルモノハ無泄本編ニ載録スト雖モ
別ニ(改正)(追加)(刪除)等ノ追告達ナキモノハ唯章款ノ目
ノミヲ舉ケテ(欠)ノ字ヲ付ス

一 各款中冒頭ニ●印ヲ付シタルハ追告アルモノトシ○印ヲ付
シタルハ追告ナキモノトス

一 其化編纂法ハ正編ノ通ナレバ復タ茲ニ贅セズ

明治十八年第三月下濤

編者識

例言

大日本
帝國議員必携續編

目次

第一章 國會

第一款 國會開設ノ期

第二章 府縣會

第一款 總則

第二款 撰舉

第三款 議則以上

第四款 開閉

第五款 常置委員次

第六款 府縣會ニ係ル雜則次

一丁

目次

目次

第七款	參事院裁定書	二丁
	新潟縣令下縣會卜ノ具狀裁定	三丁
	宮城縣令下縣會卜ノ具狀裁定	一二丁
第三章	郡區町村會	
第一款	區郡部會規則欠	
第二款	改正區町村會法	二五丁
第四章	勸業會	
第一款	府縣農商工諮問會	三三丁
第二款	區及聯合區町村農商工業議會欠	
第三款	勸業諮問會	三三丁
第五章	衛生會	

目次

第一款	中央衛生會	四四丁
第二款	地方衛生會	四五丁
第六章	教育會	
第四六丁		
第七章	附則	
第一款	郡區町村編制法	四八丁
第二款	地方稅規則	五〇丁
第三款	營業稅雜種稅規則欠	
第四款	儲蓄備荒法	五九丁
第五款	備荒儲蓄金取扱順序	六三丁
第六款	備荒儲蓄金配付額	七〇丁
第七款	金穀公借共有物取扱土木起功規則欠	

以上

大日本
帝國議員必携續編

彈 舜 平 編 纂

第一章 國會

○第一款 國會開設ノ期

第二章 府縣會

○第一款 總則

○第二款 撰舉

○第三款 議則 (以上ノ該款ハ改正ノ追告
ナケレハ載スヘキ者ナシ)

●第四款 開閉

○太政官第二十八號布告 明治十七年
十二月八日

明治十三年^四第十五號布告府縣會規則第三十一條 (正編五十五
丁下參照)

府縣會開閉

中三月ヲ十一月ト改正シ明治十八年十一月ヨリ施行ス
右奉 勅旨布告候事

(參考) ○太政官第八十九號官省院 明治十七年 廳府縣 十月廿八日

明治七年^十月^十達會計年度ヲ改メ明治十九年度以降其年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ヲ以テ會計一週年度ト相定メ候條此旨相達候事

但來明治十八年度ハ同年七月一日ヨリ翌年三月三十一日迄九箇月ヲ以テ一週年度トシ豫算取計可申事

○第五款 常置委員

○第六款 府縣會ニ係ル雜則(以上改正ノ追告ナケレハ裁スベキモノナシ)

●第七款 參事院裁定書增

●新瀉縣令ト縣會トノ具狀裁定

新瀉縣令

永山盛輝

新瀉縣會議長

島田 茂

右縣令ト縣會トノ間ニ於テ常置委員議決ノ事件ニ付法律ノ見解ヲ異ニシ權限ヲ爭ヒ府縣會規則第九條ニ依リ裁定ヲ仰クノ要領左ノ如シ

縣會ノ具狀

明治十六年通常縣會ニ於テ常置委員ヨリ其會議ニ於テ議決シタル事件ノ報告ヲ受タルニ客歲十月三日ノ洪水ニテ中蒲原郡五反田村外六ヶ村堤防破潰ニ付縣令ハ同十二月中該工費豫算及其徵收方案ヲ併セ之ヲ該會議ニ付シ其議決ヲ以テ

參事院裁定

直ニ之ヲ施行セリ右ハ該會議ニ付スヘキモノニ無之其議決無効ナリト確認シ該金割戻ノ義縣令へ開申致シタルモ遂ニ之ヲ採用セス縣令代理人ハ法律ニ準據シタル至當ノ所當ナリト辯護セリ是ニ於テ見解ヲ異ニシ御裁定ヲ請フニ至レリ

縣令代理人ハ臨時急施ヲ要スル場合ナルヲ以テ府縣會議規則第三十七條ニ據リ該會議ニ付シタルハ至當ナリト辯明スト雖モ本會ニ於テハ其臨時急施ヲ要スル場合ナルモノハ即チ縣會ヲ開クノ暇ナキ場合ヲ云ヒシモノニシテ如此日子ニ餘裕アルノ場合ヲ云フニ非スト信認セリ何トナレハ該會ノ議決ヲ要スルノ場合タル眞ニ其止ヲ得サルノ場合ニ限ルヘキモノナレハナリ假ニ一步ヲ讓リ縣令代理人カ陳辯ノ如ク臨

時急施ヲ要スル場合ナルヲ以テ府縣會議規則第三十七條ニ據リ該會議ニ付シ之カ經費ヲ議決セシムルヲ得ルトスルモ其徵收方法ヲ議定スルカ如キハ固ヨリ本會特有ノ權ニシテ該會ニ於テハ權外ナリト信認ス

縣令代理人ハ府縣會議規則第三十七條ニ據リ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ其經費ヲ議セシムルヲ得ルニ於テハ併テ其徵收方法ヲモ議決セシムルヲ得ルハ勿論ナリト辨明スト雖モ本會ニ於テハ該書カ其議權ヲ併有セシハ客年第六十八號布告ヲ以テ該條ヲ改正シ及ヒ徵收方法ノ五文字ヲ插入セラレタルノ後ニアリトス何トナレハ其前既ニ該會ニ於テ之カ議權ヲ併有セルモノトセハ故ラニ該條ヲ改正シ更ニ其議權ヲ

増附セルカ如キ該文字ヲ挿入セラルヘキ理由ナケレハナリ」
右ニ陳辯シタル如クナレハ該議按ハ常置委員會議ニ付スヘ
キモノニ無之而シテ縣令ハ其法律ニ背馳セル無効ノ議決ヲ採
リ施行セシモノナリト確信ス

縣令ノ答辯

縣會ハ明治十五年十二月中蒲原郡五反田村外六ヶ村破堤修
築補助費豫算及徴収方案ヲ常置委員會議ニ付シタルハ不當ノ
處置ニシテ其議決無効ナリトシ該費割戻ヲ開申スト雖モ右
ハ法律ニ牴觸セシモノニ無之ト信認シ之ヲ採用セカリシナ
リ

縣會ハ該破堤ノ日ヨリ該經費議決ノ日ニ至ルマテ日子ニ餘

裕アルヲ以テ臨時急施ヲ要スル場合無之假ニ一步ヲ讓リ臨
時急施ヲ要スル場合トスルモ其徴収方法ヲ議定スルノ權ハ
常置委員會議ノ權外ナリト謂ト雖モ抑破堤ハ十月三日ニ在リ
其經費ノ収出豫算ヲ常置委員會議ニ付シタルハ十月十五日ニ
シテ其議決ハ十二月八日ナリ其間日子ヲ重キタルハ該會議
事ノ都合ニ出タルモノニシテ其急施ヲ要スルノ事業ナルハ
又敢テ辨論ヲ要セス故ニ府縣會規則第三十七條末段ニ依リ
常置委員會議ノ議決ヲ要シタリ既ニ之カ經費ノ議決ヲ要シタ
ル上ハ其徴収方案ヲ併セ議定セシムルヲ得ルハ理ノ當ニ
然ルヘキモノニシテ府縣會規則第三十七條ノ精神ニ對シ牴
觸ノ廉無之ト信認セリ

縣會ハ客年第六十八號布告ヲ以テ該條ヲ改正セラレタル後始テ常置委員會ニ於テ徵收方法ヲ議定スルノ權ヲ有セシモノニシテ其以前ニ在テハ該權ヲ併有セサルモノナリト云フト雖モ前條ニ陳セシ如ク其經費ヲ議決スルノ權アレハ隨テ其徵收方法ヲ議定スルノ權ナカルヘカラス故ニ該布告以前ニ在テモ該權ヲ有セサルモノト確信セリ

右ニ陳辨シタル如ク該議按テ常置委員會ニ付シ其議決ヲ以テ施行シタルハ法律ニ背馳シタルモノニ無之ト信認ス

審明

本件縣令ト縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニシ權限ヲ爭フノ要點ハ縣令ハ明治十五年十月三日ノ洪水ノ爲メニ破潰シタ

ル中蒲原郡五反田村外六ヶ村堤防ノ工費豫算及其徵收方法ヲ常置委員ノ議決ニ付シテ之ヲ施行スルコトヲ得ルヤ否ニアリ仍テ之ヲ審案スルニ縣會ハ府縣會規則第三十七條中臨時急施ヲ要スル場合トハ縣會ヲ開クノ暇ナキ場合ヲ云フモノナリ而シテ五反田村外六ヶ村堤防ノ破潰シタルハ十五年十月三日ニシテ縣令カ其工費豫算及徵收方法ヲ常置委員ノ議決ニ付シタルハ同年十二月ニ在リ此ノ如キハ臨時急施ヲ要スル場合ト云フノ限ニアラスト陳述スレトモ洪水ノ爲メニ破潰シタル堤防ヲ修繕スルカ如キハ固ヨリ臨時急施ヲ要スルモノナリ且縣會ヨリ呈出シタル關係書類ニ由テ之ヲ徵スルニ縣令カ其工費豫算及徵收方法ヲ常置委員ノ議決ニ付シタルハ實ニ同年十月十

○ 五日ニシテ常置委員ニ於テ之ヲ議決シタルコト十二月八日ニ在リ然ラハ則チ十月十五日ヨリ十二月八日マテノ日子ハ常置委員カ會議ノ爲メニ費シタルモノニシテ縣令ノ與カリ知レル所ニアラス又縣會ハ常置委員ハ十五年^{十二}第六十八號布告ニ由リ初テ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ經費ノ豫算ト其徵収方法トヲ併セテ議決スルノ權ヲ得タル者ナレハ該布告發行前ニ於テ常置委員ノ議決ニ付スルコトヲ得ルハ經費ノ豫算ニ止マリ其徵収方法ハ縣會ノ議定ヲ經サルヘカラスト陳述スレトモ府縣會規則第三十七條ノ舊文ニ其經費ヲ議決シトアルハ即チ其經費ノ豫算及徵収方法ヲ議決スルモノニシテ十五年^{十二}第六十八號ノ布告ハ只其文ノ誤解ナカラシメン爲メ之ヲ明示シタ

ルニ過キサレハ常置委員ハ該布告發行前ト雖モ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テハ經費ノ豫算ト其徵収方法トヲ併セテ議決スルノ權ヲ有スルモノトス

判決

右ノ理由ニ仍リ縣令カ洪水ノ爲メニ破潰シタル堤防ノ工費豫算及其徵収方法ヲ常置委員ノ議決ニ付シテ之ヲ施行シタルハ法律ニ反セサルモノトス

明治十六年七月四日

- 審理委員長 參事院議長 山縣有朋
- 審理委員 參事院議官 鶴田 皓
- 審理委員 參事院議官 尾崎三頁

參事院裁定

審理委員 參事院議官補 小森澤長政

審理委員 參事院議官補 廣瀬進一

審理委員 參事院議官補 久保田貫一

審理委員 參事院議官補 黒田綱彦

●宮城縣令ト縣會トノ具狀裁定

宮城縣令 松平正直

宮城縣會議長 增田繁幸代理

宮城縣會副議長 遠藤 温

右縣令ト縣會トノ間ニ於テ土木費中起業費据置ノ件ニ付權限
ヲ爭ヒ府縣會規則第九條ニ依リ裁定ヲ仰クノ要領左ノ如シ

縣會ノ具狀

本年縣會ニ於テ起業費ヲ議セント欲スルニ縣令ハ之ヲ議ス
ベキ以時ニアラズトシテ其議案ヲ發付セサルニヨリ縣會ハ
本年度ノ起業費ヲ議スルコト能ハサルニ至レリ明治十六年縣
會ニ於テ起業費据置議案ニ年限及ビ金額ハ一定スト雖モ年
ノ景況ニ因リ年限内ニ於テ其年度ノ豫算金額ヲ増減スルコ
トモ有ルヘシト但書ヲ加ヘ縣令ノ認可ヲ得タル者ハ則チ年
限ト總額トノ二者ヲ置据各年度ノ金額ハ豫メ議定シ置クモ
七年ノ久キ間或ハ事變ノ生スルヲ保セサレハ各年均一ノ徵
収ハ却テ人民ノ不便ヲ來スヲ顧慮セシニ由リシヲ以テナリ
夫各年度ノ金額ハ其年ノ景況ニ依リ増減スヘキモノナル上
ハ之ヲ縣會ノ議定ニ付スヘキハ固ヨリ明ニシテ且彼ノ景況

參事院裁定

タル年ノ豐凶物價ノ高低等一二ニ止マラス通常費目ノ如キ
 モ縣令ハ年ノ景況ニ依テ議按ヲ發付シ縣會モ亦其景況ニ依
 テ之ヲ議決ス是ヲ以テ年ノ景況ハ豈獨リ縣令ノミ其觀察ヲ
 爲シ縣會ハ之ヲ爲スヘカラスト謂テ得ンヤ抑本年ハ人民ノ
 困苦維新以來未タ曾テ聞カサル所租稅未納ノ爲メ財產ヲ公
 賣ニ付セラレ祖先傳來ノ所有ヲ失ヒ父子妻兒四方ニ離散シ
 其慘言ヲ忍ヒサルモノ枚擧ニ遑アラス又本縣下ノ六工事
 ハ地方稅國庫補助金及協議費ノ三者ヲ合シテ其成功ヲ期ス
 ヘキモノナリ然ルニ國庫補助金ハ鬼首線路ヲ除キ他ノ五工
 事ニ對シテ其下付ヲ許可セラレタルノミナレハ最初六工事
 ヲ議決セシ時トハ既ニ其金額ニ差異ヲ生セリ其金額ニ差異

ヲ生セシニ於テハ町村聯合會ハ自テ協議費ニ關シ會議ヲ開
 カサルヲ得ス其議決ハ未タ何ノ點ニ歸スルヤ知ルヘカラサ
 レハ此際地方稅ノ増減モ亦議定セスンハアルヘカラス乃チ
 本年度ニ於テ豫算金額ヲ議セント欲スル所以ナリ然ルニ縣
 令ハ其議按ヲ發付セス又議案發付ノ請求書ヲ出セシモ之ヲ
 却下セリ願フニ昨年置据議案ヲ議スルニ當リ但書ヲ加ヘサ
 レハ縣會ハ之ヲ可決セサリシナラン若シ本年度ニ於テ之ヲ
 議スヘキモノニアラストセハ將來重大ノ事變ヲ生スルモ之
 ヲ議セシメサル可ク終ニ縣會ハ各年度ノ金額ニ對シ隊ヲ容
 ルハ不能ハサルニ至ラン是故ニ縣會ハ當時起業費議案ニ但
 書ヲ加ヘ仍ホ其開申書中ニ金額ヲ増減スルノ趣旨ハ本會議

定ノ上之ヲ増減スル儀ト明瞭ニ記載シタル所以ナリ然ルニ
縣令ハ曾テ之ヲ認可セシニ關セズ縣會ヲシテ本年度豫算ヲ
議セシメサルハ該但書ヲ無効ト爲シ既ニ與ヘタル議權ヲ消
滅ニ歸セシメタルモノナリ

縣令之答辨

土木費ノ内起業費ハ縣下羽後街道開鑿

鬼首線路中新田
線路古川線路

陸中岐

街道改修、東濱街道改修、貞山堀改修、松嶋灣舟路改修、ニ充

ツルモノニシテ初メ之ヲ豫算スルニ六拾餘萬圓ノ巨額ヲ要

シ一二年間ノ能ク成功シ得ヘキニアラサルヲ以テ地方稅規

則第四條第二項ニ依リ明治十六年度ノ豫算金額ヲ以テ明治

二十二年度迄一定聯串施行セシムルヲ欲シ其議案ヲ昨年縣會ニ

付セシニ縣會ハ年限及金額ハ一定スト雖モ年ノ景況ニヨリ
年限内ニ於テ其年度ノ豫算金額ヲ増減スルコトモアルヘシ
トノ但書ヲ加ヘ議決セリ右ノ如ク各年度ノ金額ヲ定ムト雖
モ凶荒等ノ事變ニ遭遇シ人民之カ負擔ニ堪ヘサル場合ニ於
テハ但書ナキモ其變更ヲ謀ルヘキハ當然ナレハ但書ハ贅文
タルニ近シト雖モ本條ノ旨意ヲ害セサルニヨリ其決議ヲ採
リ内務卿ノ認可ヲ得甲第九十三號ヲ以テ管内ニ布達シタリ
已ニ布達シタル上ハ七箇年各年度ノ豫算ハ確定シタル
モノニシテ萬止ムヲ得サルノ外ハ毎年増減ヲ爲スヘキニア
ラサルヲ明カナリ本年管内ノ行情ハ金融閉塞、物價低落等
ノ爲メ往々困難ヲ訴マルモノナキニアラスト雖モ未タ起業

參事院裁定

定ノ上之ヲ増減スル儀ト明瞭ニ記載シタル所以ナリ然ルニ
縣令ハ曾テ之ヲ認可セシニ關セズ縣會ヲシテ本年度豫算ヲ
議セシメサルハ該但書ヲ無効ト爲シ既ニ與ヘタル議權ヲ消
滅ニ歸セシメタルモノナリ

縣令ノ答辨

土木費ノ内起業費ハ縣下羽後街道開鑿 鬼首線路中新田
線路古川線路 陸中岐

街道改修、東濱街道改修、貞山堀改修、松嶋灣舟路改修、ニ充
ツルモノニシテ初メ之ヲ豫算スルニ六拾餘萬圓ノ巨額ヲ要
シ一二年間ノ能ク成功シ得ヘキニアラサルヲ以テ地方稅規
則第四條第二項ニ依リ明治十六年度ノ豫算金額ヲ以テ明治
二十二年迄一定聯串施行セシムル欲シ其議案ヲ昨年縣會ニ

付セシニ縣會ハ年限及金額ハ一定スト雖モ年ノ景況ニヨリ
年限内ニ於テ其年度ノ豫算金額ヲ増減スルコトモアルヘシ
トノ但書ヲ加ヘ議決セリ右ノ如ク各年度ノ金額ヲ定ムト雖
モ凶荒等ノ事變ニ遭遇シ人民之カ負擔ニ堪ヘサル場合ニ於
テハ但書ナキモ其變更ヲ謀ルヘキハ當然ナレハ但書ハ贅文
タルニ近シト雖モ本條ノ旨意ヲ害セサルニヨリ其決議ヲ採
リ内務卿ノ認可ヲ得甲第九十三號ヲ以テ管内ニ布達シタリ
已ニ布達シタル上ハ七箇年間各年度ノ豫算ハ確定シタル
モノニシテ萬止ムヲ得サルノ外ハ毎年増減ヲ爲スヘキニア
ラサルヤ明カナリ本年管内ノ形情ハ金融閉塞、物價低落等
ノ爲メ往々困難ヲ訴フルモノナキニアラスト雖モ未タ起業

參事院裁定

費ノ負擔ニ堪ヘサルカ如キ悲惨ノ情況アルヲ見ス況ンヤ本年之ヲ減セハ後年之ヲ増カ、ルヘカラサルニ於テチヤ故ニ縣令ハ昨年ノ決議ヲ變更スルノ場合ニアラスト視認シ其議案ヲ發付セス然ルニ縣會ヨリ議案發付ノ請求ヲ爲セシモ此事タル法律ノ範圍外ニ出ルモノナルヲ以テ之ヲ却下セシノミニシテ曾テ縣令ハ縣會ニ對シ權限ヲ爭ヒタルヲナシ今縣會ノ具狀書ヲ見ルニ年限ト總額トノ二者ヲ据置各年度ノ金額ハ年ノ景況ニヨリ増減スヘキモノト謂フト雖モ該起業費ハ縣會ニ於テ何ノ法律ニ依リ議定セシヤ蓋地方稅規則第四條第二項ニ依リ議定セシモノナルヘシ果シテ然ラハ年限及金額ノミヲ議決スルハ法律ノ許ス所ニアラス又特ニ內務卿

ノ認可ヲ請フニ及ハサルナリ又父子妻兒四方ニ離散シ其慘言フニ忍ヒスト雖モ管内全体ノ景況ハ未ダ斯ノ如キニ至ラサルハ本年他ノ地方稅ニ於テ普通ノ議決ヲ爲シタルヲ以テ見ルモ之ヲ證スルニ足ル又國庫補助金協議費等ハ素ト縣會ノ關スル所ニアラス且鬼首線路ニ係ル補助金ハ秋田縣ト協議ノ上申出ヘシトノ指令ニシテ目下詮議中ノ事タリ抑縣會ノ關セサル所ノ事ヲ舉テ茲ニ之ヲ論スルハ無用ノヲタルヘシ又据置議案ニ但書ヲ加ヘサレハ縣會ハ之ヲ可決セサリシナラント謂フハ何等ノ趣旨ナルカ若シ年々之ヲ議スルノ精神トセハ法律ヲ誤解シタルモノニシテ今日之ヲ論スルモ固ヨリ無効タルヘキノミ又該但書ヲ加ヘタル開申書中ニ金額

ヲ増減スルノ趣旨ハ縣會議定ノ上之ヲ増減スル儀ト明瞭ニ記載シタルヲ縣令ノ認可セシニ關セス縣會ヲシテ本年度豫算ヲ議セシメサルハ該但書ヲ無効ト爲シ既ニ與ヘタル議權ヲ消滅ニ歸セシムルモノナリト謂フト雖モ縣會ノ議決ヲ變更セントスルトキハ府縣會議規則第三條ニ從ヒ更ニ縣會ノ議決ヲ取ルヘキハ言ヲ待タス故ニ本年議案ヲ發付セサルハ豫算ノ變更ヲ要セスト信認セシヲ以テナリ然ルヲ既ニ與ヘタル議權ヲ消滅ニ歸セシムトハ何ソヤ縣會ノ議權ハ法律ノ與フル所縣令之ヲ與ヘ之ヲ消滅セシムヘキモノニアラサルハ勿論ナリ但縣令ハ其議案ヲ發セサルノミ會テ縣會ト權限ヲ爭ヒタルコトナシ

審明

本件縣會ハ縣令ト權限ヲ爭フト謂ヒ縣令ハ縣會ト權限ヲ爭フトコトナシト謂フト雖モ縣會ハ昨年縣令ヨリ發付セシ起業費置据議案ニ但書ヲ加ヘ縣令ノ認可ヲ得タルヲ以テ本年度起業費ノ豫算ヲ議定スヘキノ權アリト謂ヒ縣令ハ其豫算ヲ變更スヘキ時ニアラサルヲ以テ議定セシムヘキモノニアラスト謂フ事畢竟縣會ノ議權ニ關シ互ニ意見ヲ異ニタルモノニシテ則チ縣令ト縣會トノ間ニ於テ權限ヲ爭ハモ少ト認定スル可キ事ニ於テ議定シタル土木費中起業費本年度ニ係ル豫算金額ノ議案ヲ發付セサルハ縣會ノ議權ヲ消滅ニ歸セシムルモノナリヤ

參事院裁定

否ヤニ在リ由テ審案スルニ縣會ハ昨年縣令ヨリ發付セシ起業
 費置據議案ニ年限及金額ハ一定スト雖モ年ノ景況ニ因リ年限
 内ニ於テ其年度ノ豫算金額ヲ増減スルコトモアルヘシト但書
 ナ加ヘタルモノハ則起業費ノ年限ト總額トヲ置據各年度ノ金
 額ハ縣會ニ於テ年ノ景況ニ依リ増減ヲ議スヘキノ趣旨ニシテ縣
 令ハ其議決ヲ認可セリ而シテ本年ハ縣下人民ノ困苦甚キト國庫
 補助金下付額ニ差異ヲ生セシトナリテ縣會ハ該但書ノ趣旨ニ
 遵ヒ本年度ノ金額ヲ議セシト欲スルモ縣令ハ其議案ヲ發布セ
 ス又議案發付ノ請求書ヲ出セシモ之ヲ却下シ其議スヘキノ權
 アルモノヲ議セシメサルハ縣會ノ議決ヲ無効トナシ既ニ與ヘ
 タル議權ヲ消滅ニ歸セシムルモノナリト謂フト雖モ起業費置

據議案ハ地方稅規則第四條第二項地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事
 件數年ヲ期シテ施行スルモノハ初年ニ於テ其年期間各年度ノ
 經費豫算ヲ定メ府縣會ノ議決ヲ取り府知事縣令ヨリ内務卿ニ
 具狀シ認可ヲ得テ其年期間之ヲ施行スルコトヲ得トアルニ依
 リ縣令之ヲ發付セシモノナレハ其初年ニ於テ各年度ノ豫算金
 額ヲ定ムヘキハ勿論ナリ況ンヤ縣會ニ於テ議定シタル議案中
 明治十六年度ノ豫算金額ヲ以テ明治二十二年迄七ヶ年間置據
 施行スヘシトアリ又縣令カ昨年中第九十三號ヲ以テ管内ニ布
 達シタル起業費豫算中ニ各年度ノ支出額ヲ明記シタルヲ以テ
 見ルモ豫メ各年度ノ金額ヲ定メタルハ明瞭ナルニ於テチヤ且
 但書ノ明文ニ就テ之ヲ見ルモ年限内非常ノ事故アルニ際シ其

年度ノ豫算金額ヲ變更セサルヘカラスルニ於テハ之ヲ増減シ
 必シモ豫定ノ金額ヲ徵収スルコトナキノ便宜ヲ示スニ外ナラ
 ス抑縣會ハ府縣會規則第七條ニ據リ縣令ニ建議スルコトヲ得
 ルニ止マリ議案被付ヲ請求スルノ權ヲ有スルモノニアラス故
 ニ縣令ニ於テ本年度ノ豫算金額ヲ變更スヘキノ時ニアラスト
 視認シ議案ヲ發付セサル上ハ縣會ニ於テ之ヲ議スルノ權ナキ
 モノトス

判決

右ノ理由ニ依リ縣令カ土木費中起業費十七年度ニ係ル豫算金
 額ノ議案ヲ發付セサルハ縣會ノ議權ヲ消滅ニ歸セシメタル者
 ニアラス

明治十七年四月十五日

- | | | |
|-------|--------|-------|
| 審理委員長 | 參事院議長 | 福岡孝弟 |
| 審理委員 | 參事院議官 | 安場保和 |
| 審理委員 | 參事院議官 | 西園寺公望 |
| 審理委員 | 參事院議官補 | 周布公平 |
| 審理委員 | 參事院議官補 | 若山儀一 |
| 審理委員 | 參事院議官補 | 牧 扑眞 |
| 審理委員 | 參事院議官補 | 水野 遵 |

第二章 郡區町村會

○第一款 區郡部會規則

(改正ノ件ナシ)

●第二款

改正 區町村會法

區町村會法

(改正) ○太政官第十四號布告明治十七年五月七日

明治十三年^{四月}第十八號布告(正編八十)八丁參觀區町村會法左ノ通改正ス

區町村會法

第一條 區町村會ハ區町村費ヲ以テ支辨スヘキ事件及其經費ノ支出徵收方法ヲ議定ス

第二條 區町村會ノ會期、議員ノ員數、任期、改選及其他ノ規則ハ府知事縣令之ヲ定ム

第三條 區會ハ區長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス町村會ハ戶長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス

第四條 區會ノ評決ハ區長之ヲ施行シ町村會ノ評決ハ戶長之ヲ施行ス若シ其評決ヲ不適當ナリトスルハ其施行ヲ止メ

府知事縣令ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第五條 區長ニ於テ區會、郡區長戶長ニ於テ町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ害スルコトアリト認ムルトキハ其會議ヲ中止シ府知事縣令ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第六條 府知事縣令ニ於テ區町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ害スルコトアリト認ムルトキハ何時タリトモ區町村會ヲ停止シ又ハ之ヲ解散シテ改選セシムルコトヲ得

第七條 前條ノ場合ニ於テ停止又ハ解散ヲ命シタルトキハ更ニ開會ヲ命シ又ハ改選スル迄ノ間區長戶長ハ經費ノ支出徵收方法ヲ定メ府知事縣令ノ認可ヲ得テ施行スルコトヲ得

第八條 區町村ニ於テ議員ヲ選舉セス又ハ議員招集ニ應セス

區町村會法

シテ會議ヲ開クヲ得ス及議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會
期內ニ於テ議案ヲ評決シ終ラサルトキハ前條ノ例ニ依ル

第九條 議員ヲ選舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニ
シテ其區町村ニ住居シ其區町村內ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ
限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款ニ觸ル、者
及ヒ陸海軍々人現役ノ者ハ選舉人タルコトヲ得ス

第十條 議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歲以上ノ男子ニ
シテ其區町村ニ住居シ其區町村內ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ
限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款第四款ニ觸
ル、者ハ議員タルコトヲ得ス

第十一條 區會ノ議長ハ區長町村會ノ議長ハ戶長ヲ以テ之ニ

充ツ區長戶長若シ事故アルトキハ區長戶長ニ於テ議員中ヨ
リ議長ヲ指定スルコトヲ得

第十二條 府知事縣令其管轄內ニ於テ町村會ヲ開設シ得ヘカ
ラサル狀況アルヲ認ムルトキハ内務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請
フヘシ

第十三條 府知事縣令ハ數町村ニ關涉スル事件アルトキハ其
區域ヲ定メテ聯合區町村會ヲ開設スルコトヲ得

第十四條 府知事縣令ハ水利土功ニ關スル事項ニシテ區町村
會若シクハ聯合區町村會ニ於テ評決スルヲ得サルモノアル
トキハ特ニ其區域ヲ定メテ水利土功會ヲ開設スルコトヲ得
第十五條 聯合區町村會及水利土功會ハ總テ本法ニ準據ス其

區域區長戸長數人ノ所轄ニ涉ルモノハ府知事縣令便宜郡區長ヲシテ之ヲ管理セシム但戸長ヲシテ其評決ヲ施行セシムルコトアルヘシ

右奉 勅旨布告候事

○太政官第十五號布告明治十七年五月七日

區町村會ニ於テ評決シタル區町村費及ヒ水利土功會ニ於テ評決シタル土木費ノ怠納者ハ總テ明治十年十一月第七十九號布告(租稅未納者處分法ノ一)ニ據リ處分ス可シ若シ財產公賣ノ際買受望人ナキトキハ官沒ノ手續ヲ爲サス郡區長又ハ戸長ニ於テ之ヲ管掌シ會議ノ評決ヲ取り府知事縣令ノ認可ヲ得テ處分スヘシ
但明治十四年四月第二十四號布告(正編九十七丁ニ出ツ參觀)ハ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

○太政官第貳拾三號布告明治十七年七月四日

區町村會ニ於テ評決シタル區町村費ニ關シ不服アリテ出訴セントスルモノハ都テ明治十五年五月第貳拾貳號布告(正編九十八丁ニ行制註ニ出ス參)ニ依ルヘシ

右奉 勅旨布告候事

(參考) ○太政官第九拾四號官省院同 十七年 府縣達十一月十八日

凡ソ官有地ハ人民ニ使用ヲ許シタルモノヲ除ク外其所在區町村費ノ賦課ニ應セサル儀ト心得ヘシ此旨相達候事
但道路疏水等ノ爲メ該區町村へ手當金ヲ給與スルハ各適宜タルヘシ

○滋賀縣伺 明治十六年八月十七日

區町村會又ハ聯合區町村會ニテ評定シタル商法會議及ヒ府知事縣令ノ裁可ヲ經タル同業會等ノ決議ノ如キハ其關係ノ町村及ヒ同業者ニ在テハ町村會同様ノ効力ヲ有スルモノト被存候然ラハ其決議ノ施行モ又其關係ノ區戶長又ハ郡長ニ於テ便宜之ヲ爲スモノト相心得可然哉
右相伺候至急御指揮相成度候也

○農商務省指令 明治十六年九月七日

伺ノ趣區町村會又ハ聯合區町村會ニアラサル他ノ各會ノ決議ハ區郡長又ハ戶長ニ於テ施行スルノ限ニアラサル儀ト可相心得事

第四章 勸業會

●第一款 府縣農商工諮問會

(廢) ○太政官第十六號布告 明治十六年五月十六日

明治十四年五月第二十九號布告 (正編百十〇丁) 廢止ス

右奉 勅旨布告候事 (農工商會規則ノ下)

○第二款 區及聯合區町村農商工業議會欠

●第三款 勸業諮問會

(改正) ○太政官第十三號布達 明治十六年五月十六日

各地方ノ便宜ニ從ヒ左ノ條項ニ照準シテ勸業諮問會并勸業委員ヲ設置スルコトヲ得

第一條 諮問會ハ各府縣勸業事務ニ付府知事縣令ノ諮問ニ備

府縣農商工諮問會○勸業諮問會

ナル者トス

第二條 諮問會員ハ府知事縣令ニ於テ管内農商工事ニ名望アル者ヲ撰ンテ之ニ充ツ其人員并處務ノ順序等總テ府知事縣令適宜之ヲ定ムヘシ

第三條 諮問會ノ旅費日當ハ地方稅中勸業費ヲ以テ支辨スヘシ

第四條 勸業委員ハ區町村若クハ聯合區町村ニ於テ勸業ノヲ擔任シ又ハ區長戸長ノ諮問ニ備フルモノトス

第五條 勸業委員ノ人員撰舉方法及ヒ處務ノ順序等ハ區町村會又ハ聯合區町村會ニ於テ之ヲ評定シ府知事縣令ノ裁可ヲ受ク可シ

第六條 區町村若クハ聯合區町村ニ於テ農業會商業會工業會又ハ農商工ヲ併セタル勸業會其他同業會ヲ設置スルキハ勸業委員ヲシテ會員タラシムルヲ得

第七條 府知事縣令ニ於テ勸業委員ノ設置及ヒ第六條ノ各會設置ヲ要用ト認ムルキハ誘導シテ之ヲ設置セシムルコトヲ得此場合ニハ農商務卿ニ稟議シテ認可ヲ受ク可シ

第八條 勸業委員ノ旅費日當及第六條ノ各會諸費ハ區町村及ヒ聯合區町村ノ協議費ヲ以テ支辨シ又ハ關係各業者ニ於テ協議支辨スルヲ得但有志者ヲ以テ組織スル者ハ此例ニ非ラス

第九條 農商務卿及ヒ主務ノ官署ハ各地方勸業上ノ件ニ付諮

勸業諮問會

問會又ハ第六條各會ノ意見ヲ問フアルヘシ
諮問會又ハ第六條ノ各會ハ勸業上公益ノ件ニ付農商務卿及
主務ノ官署ニ意見書又ハ報告書ヲ呈スルコトヲ得
右布達候事

○農商務省第八號府達明治十六年七月二十日

本年^五月第十三號布達(前ニ載スル布達ナリ)相成候ニ就テハ左ノ條項爲心
得相達候事

第一諮問會ニ諮問スヘキ事項

- 一 海陸運漕ノ利害道路港灣ノ開發修築ニ關スル事
- 二 溝渠用惡水疏通ニ關スル事
- 三 惡蟲及有害鳥獸驅除ノ事

四 動植物蕃殖及改良ノ事

五 山林培栽及保護ノ事

六 農商工統計ノ事

七 前六項ノ外農商工事ノ利害ニ關スル事

第二諮問會員ノ定限

會員ハ任期ニ定限ナク又其數ヲ限ラスト雖モ五十名ヲ超ユ
ヘカラス

縣會議員、學務委員、衛生委員、戶長、等ノ職務アル者ト雖モ
農商工事ニ名望アルモノハ之ヲ諮問會員ヲ兼務セシムルモ
妨ケナシ

農商務省官吏及農商工上等會員又ハ府知事縣令ノ許可ヲ得

勸業諮問會

タル該府縣ノ官吏ハ會場ニ列シ意見ヲ陳ルヲ得ヘシ但會員ノ數ニ加ヘス

第三諮問會々頭

府知事縣令之ヲ勤ムヘシ但書記官又ハ各課長ヲシテ代理セシムルヲ得

第四諮問會説明委員及書記

府知事縣令其屬官中ヨリ之ヲ命スヘシ

第五諮問會開會ノ期節又ハ臨時開會ヲ要スヘキ場合

通常府縣會開會以前ヲ以テ通常諮問會開會ノ期節トシ其臨時開會ノ場合ハ府知事縣令ノ見込ニ依ルヘシ

第六諮問會則ノ要旨及諸説ノ採擇

會則ハ總テ談話ノ体ヲ用ヒ諸説ノ採擇ハ會頭ノ意見ニアルヘシ但場合ニヨリ會員ノ意見ヲ識別スヘキ爲メ起立ノ作用ニ依ルモ妨ナシ

第七諮問會員ノ招集

會員ノ招集ハ府知事縣令ノ達書ヲ以テシ通常開會ノ日數ハ概テ十五日以内臨時開會ノ日數ハ概テ七日以内トスヘシ

第八諮問會費

旅費日當ハ府縣會議員ノ旅費日當ニ超ハサル額ヲ日途トシ府縣會議ニ附スル等ハ總テ府縣會規則ノ成法ニ依ルヘシ諮問會員ニ年手當ヲ給スルノ必要アルキハ地方稅中勸業費ヲ以テ支辨スルヲ得其他開會ノ費用ハ府縣廳中費ヲ以テ

勸業諮問會

支辨スヘシ

第九勸業委員ノ擔任

勸業委員ハ府知事縣令ノ裁可ヲ受クタル處務順序ニ依リ請
持部内ノ農商工事ノ上進ヲ圖リ及府縣廳_區役所ノ指揮スル
處ノ事務并戶長ヨリ協議ノ事務ヲ處辨スヘシ

第十_區長戶長諮問ノ事項

諮問ノ事項ハ概テ第一ノ事項ニ依ルヘシ諮問ハ勸業委員各
人ニ諮問スヘキモノトス

第十一勸業委員ノ撰舉

選舉區域ハ實地ノ景況ニ依ルヘキモノトス但其受持部ノ甚
廣大ニ失セザラシク要ス

勸業委員ノ選舉ハ其要スヘキ人員ノ幾倍ヲ選舉セシメ府知
事縣令之ヲ選抜スルノ場合アルヘシ

第十二農業會商業會工業會及同業會

各會ハ名稱ヲ一ニシテ檢束スルモノニ非ス譬ヘハ農業會中
ニ農談會アリ商業會中ニ商法會議所アリ同業會中ニ單一
種ノ同業會或ハ各種同業ヲ聯合シタル同業會アルノ類トス

第十三勸業委員ノ設置及各會設立ノ誘導

準則ヲ設クテ諭達シ或ハ_區長戶長ニ指示スル等同一ニ施行
セント圖ルコアルキハ稟議シテ認可ヲ受クヘシト雖モ有志
者ヲ説諭奮起セシムル等ノ如キハ認可ヲ請クヘキ限ニ非ス

一四 第十四勸業委員費

勸業諮問會

旅費日當額ハ區町村會若クハ聯合區町村會又ハ關係各業者ノ議決ヲ經ル等總テ區町村會法ノ成法ニ依ルヘシ
 勸業委員ニ年手當ヲ給スヘキ必要アルハ之ヲ協議費ヨリ支辨シ或ハ其幾分ヲ地方稅中勸業費ヲ以テ補助スルヲ得ヘシ勸業上ニ付勸業委員ヲ府縣廳ヘ招喚スヘキ要用アルハ其旅費日當ハ地方稅中勸業費ヨリ支辨スヘシ
 第十五施行ノ後本省ヘ報告スヘキ件似
 諮問會員ノ人名及處務ノ順序
 勸業委員ノ人員撰舉方法及處務ノ順序
 各會設置ノ組織
 已上ニ關スル諸費用ノ豫算決定額及仕譯書

其他該件ニ關スル緊要事件

○農商務省第十一號府達 明治十六年九月廿五日
 本年^五月第十三號前ニ出ツ布達第五條勸業委員ノ人員撰舉方法及ヒ處務ノ順序等ハ區町村會又ハ聯合區町村ノ評定ニ任スヘキノ處該會ノ設置無之地方ニ於テハ其手續ヲナスヘキ爲メ之ニ代フルニ區町村從來慣行ノ相談會等ニ於テ評定スルモ不苦爲心得此旨相達候事

○農商務省第十七號府達 明治十六年十二月一日
 毎年十月一日ヨリ當省ニ於テ勸業會開設候條農商工及ヒ山林ニ關スル課掛ノ内重立候者一名ツ、出京可爲致此旨相達候事
 但本年度ノ分ハ來ル十七年一月十五日ヨリ開設候事

勸業諮問會○中央衛生會

第五章 衛生會

●第一款 中央衛生會

(改正) ○太政官第七拾五號官省院達 明治十七年 廳府縣 九月十一日
 明治十二年^{月十二}第五拾四號達(正編百三十) 八丁參觀中央衛生會職制第一項
 左ノ通改正候條此旨相達候事
 一本會ハ左ノ人員ヲ以テ之ヲ編成ス

- 會長 一人
- 副會長 一人
- 委員 一人
- 醫員 十人
- 化學家 三人

工學家

三人

衛生局長

警保局長

土木局長

參事院議官若クハ議官補 二人

警視總監

東京府知事

內務書記官

三人

臨時委員

無定員

●第二款 地方衛生會

○椽木縣明治十八年 一月廿日

中央衛生會○地方衛生會教育會

六四

郡長地方衛生會委員トナリ該會へ出張ノ旅費ハ地方税ヨリ支給スヘキヤ

○内務省指令全 十八年 一月廿八日

郡長地方衛生會委員トナリ該會へ出張ノ旅費ハ官費支給スヘシ

第六章 教育會

○和歌山縣伺明治十六年 八月三十日

教育令第九條ニ依リ町村ニ對シテ指示セシ小學校ニシテ學區内町村會ノ評決ヲ經同令第三十條ノ旨ニ遵ヒ主務者ヨリ學校設置ヲ伺出タル場合ニ方リ其備設不十分應當ノ教育ヲ施行スルニ足ラスト認メ該伺ニ對シ難聽屆旨指令致候片ハ

主務者ハ更ニ縣令ノ指揮ヲ請ハス直ニ再ヒ之ヲ會議ニ附スルコトヲ得ヘキ筋ニシテ區町村會法ニ抵觸無之義ト相心得可然ヤ何分ノ義至急御指揮相仰候也

○文部省指令明治十六年 十月十五日

指令書面伺之通

○茨城縣伺明治十六年 十月廿二日

學區聯合會議員召集ニ應セサル時ハ戶長ニ指令シ原按通り施行セシメ然ルヘキヤ電報指揮アレ

○文部省指令全 十六年 十二月三日

十月廿二日發電報伺學區内ニ係ル町村聯合會議員召集ニ應セサル時處分方ノ儀ハ伺之通

七四

教育會郡區町村編制法

第七章 附則

●第一款 郡區町村編制法

○太政官第拾五號布告明治十六年五月五日

今般富山佐賀宮崎三縣ヲ置ク

富山縣 縣廳位置越中國上新川郡富山

管轄 越中國 一圓

佐賀縣 縣廳位置肥前國佐賀郡佐賀

管轄 肥前ノ内 基肄郡 養父郡 三根郡 神崎郡

佐賀郡 小城郡 東西松浦郡 杵嶋郡 藤津郡

宮崎縣 縣廳位置日向國宮崎郡宮崎

管轄 日向國諸縣郡ノ内 志布志郷 大崎郷 松山郷 除キ同國一圓

右奉 勅旨布告候事

○太政官第貳號布告全十七年一月廿一日

椽木縣廳位置ヲ下野國河内郡宇都宮ニ改定ス

右奉 勅旨布告候事

○太政官第三號布告明治十七年一月廿六日

明治十一年七月第拾七號(正編百六 十丁參觀)布告郡區町村編制法ニ依リ宮

崎縣下日向國臼杵、那珂、北諸縣ノ三郡ヲ左ノ通分割ス

西臼杵郡 北臼杵郡

北那珂郡 南那珂郡

北諸縣郡 西諸縣郡 東諸縣郡

右奉 勅旨布告候事

郡區町村編制法○地方稅規則

●第二款 地方税規則

○太政官第十三號布告 明治十七年五月七日

明治十三年^四月第十六號布告地方税規則第三條第十五項^(正編百六十五)
丁參左ノ通改正シ十七年度ヨリ施行ス
一戸長以下給料旅費

右奉 勅旨布告候事

○太政官第二十二號布告 明治十七年六月十三日

本年^五月第十三號布告ヲ以テ地方税規則第三條第十五項改正候處同布告發行以前既ニ十七年度地方税豫算額ヲ決定シタル府縣ニ於テハ特ニ臨時府縣會ヲ開カス常置委員ノ議決ヲ取リ之ヲ施行スルコトヲ得

右奉 勅旨布告候事

○内務省第貳拾四號 府縣(函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ヲ除ク) 達 明治十七年五月七日

本年第拾三號布告ヲ以テ地方税規則第三條第十五項改正相成候ニ付テハ戸長役場諸費ハ總テ區町村費ヲ以テ支辨スヘシ此旨相達候事

○内務省第貳拾七號 府縣(函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ヲ除ク) 達 明治十七年五月廿六日

本年第拾三號布告ヲ以テ地方税規則第三條第十五項改正相成候處戸長以下ニ屬スル諸給與ハ渾テ地方税ヨリ支辨スヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○内務省乙第二十五號 府縣(函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ヲ除ク) 達 明治十六年五月廿六日

郡區長給料十六年度以後國庫ヨリ支辨相成トイヘニ滿年賜金

二五

ノ義ハ打切ニ不及義ト可心得此旨相達候事

○太政官第貳拾九號布告明治十七年十二月八日

明治十三年^四第拾六號布告地方稅規則第四條一項(正編百六十 七丁參觀)

左ノ通改正シ明治十九年度ヨリ施行ス但明治十八年度ハ明治十八年七月ヨリ翌年三月迄九箇月ヲ以テ一周年度トス

其年四月ヨリ翌年三月迄一周年度トナシ府知事縣令ハ前年

十月迄ニ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算并地方稅徵収

ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣會ノ議決ヲ取リ其

年二月ヲ以テ內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ

右奉 勅旨布告候事

○大藏省第六號府縣(沖繩)同 十六年 一月三十一日

地方税金仕拂ニ對シ切符ヲ仕用可致節ハ右切符離形相添大藏省へ届出ヘク候且從來仕用致居候向ハ此際更ニ可届出候此旨相達候事

○內務省乙第五號府縣(函館沖繩札幌)達 明治十六年 二月九日

客歲乙第七十二號(正編百七十 六丁參觀)ヲ以テ地方稅豫算議案并報告書

式相達候處戶數割ニ於テ等級課額ヲ設クルルハ該議案中へ記

載スル義ト心得ヘシ此旨更ニ相達候事

○大藏省第三拾七號府縣(沖繩)達 明治十七年 六月二日

地方稅不納者財產公賣處分決行セシ分ハ客歲當省第六拾六號達ニ準シ(此十三字第五十三 號達ニテ改正ス)十五年度以降一週年度ニ取纏メ地方稅精算書一同報告可致此旨相達候事

三五

地方稅規則

但精書報告濟ノ府縣ハ此際取纏メ報告スヘシ
 (改正) ○大藏省第五拾三號 府縣(沖繩縣ヲ除ク) 達 明治十七年七月十五日
 本年^六當省第三十七號達中「客歲當省第六十六號達ニ準シ」ト
 アルヲ「別紙雛形ノ通」ト訂正シ左ノ表ヲ追加ス
 右相達候事

明治何年度地方税不納公賣處分濟報告表

業	戸數割	税金		損失税金	不納者人員
		不納金額	公賣代金		
商業	何	箇	金何程	何人

業	種	別		合計
		課	稅	
工業	何々	何々	何々	何々
...

五五
 明治十五年^{十二}月^{十二}日 乙第七拾貳號達 (正編百七十 六丁參觀) 地方稅收入豫算議案
 ○內務省 大藏省 甲第三號 府縣(函館沖繩札幌 札幌) 達 明治十八年 一月卅一日
 地方稅規則

五 及精算報告書式中戸數割ノ次ニ合計ヲ掲ケ雜收入以下左ノ通

改正候條此旨相達候事

收入豫算議案 △印ハ米書

合計金

△外

△一金

△雜收入

△内譯

△金

△警察署雜入

△金

△土木費全上

△金

△何費全上

△金

△何費全上

△一金

△前々年度ヨリ繰越高

△一金

△國庫下渡金

△計金

總計金

收入精算報告

合計金

△外

豫算金

△一金

△雜收入

△内譯

△金

七五

地方稅規則

△金

△警察費雜入

△金

△金

△土木費同上

△金

△金

△何費 同上

△金

△何費 同上

△金

△前年度分何稅延納

豫算金

△一金

△前々年度ヨリ繰越高

△同金

△一金

△國庫下渡金

豫算金

△計金

△總計金

○第三款 營業稅雜種稅規則欠

●第四款 儲蓄備荒法

○內務省乙第拾五號

府縣(府館沖編札幌) 根室四縣ヲ除ク 達 明治十六年四月十三日

明治十三年^{十二月}第五拾號布告但書ニ依リ公儲金ヲ免除スルハ其罹災ノ年度ニ限ルヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

但從前ノ令達之ニ矛盾スルモノハ廢止ス

一參看一 ○太政官第五十號布告^{明治十三年十一月十二日}

本年^{六月}第三拾一號布告ヲ以テ定メタル備荒儲蓄金ヲ怠納スル

儲蓄備荒法

○六者、十一月第七十九號布告ニ據リ處分スヘシ但該儲蓄金ヨリ給與補助若クハ貸與ヲ受ル者ハ免除スヘシ此旨布告候事

○内務省乙第三拾九號府縣函部沖繩札幌根室ノ四縣ヲ除ク達明治十六年十月十二日

明治七年四月乙第廿八號達取消候條地方稅經濟ニ引繼カサルモノハ此際可成備荒儲蓄ノ倉庫ニ充用候様可致此旨相達候事
但存發ノ見込取調更ニ可伺出儀ト心得可シ

〔參看〕七年内務省乙第廿八號達

壬申以來貢租ノ儀石代納被差許候ニ付追々金納願出候者不尠就テハ從前各地ニ有之官營ノ倉庫等自然不用ニ屬シ往々拂下伺出候向モ有之候處右ハ詮議ノ筋モ有之候間現今破壞需用ニ難供分ヲ除クノ外可成存置ノ筈ニ候條精々

保管ヲ加ヘ猥リニ賣却毀壞等無之様注意可致此旨相達候事

但從前民營ノ倉庫タリ共本文同様他日ノ需用ニ可供見込ノ分ハ追テ何分ノ儀相達候迄可成丈存置ノ積厚注意可致事

○内務省府縣(沖繩縣及北海道三縣ヲ除ク)訓示明治十六年十二月四日

近年氣候順ヲ得テ豐作頻ニ繼キ米穀ハ各處ニ充實ス故ニ備荒儲蓄法ノ施行アリタレト爾來豐年相續キ大ニ救恤ヲ要スル凶歲トテハ一回モナシ然レトモ豐凶ハ時運ナリ決シテ其永續ヲ恃ムヘカラス明年ハ如何ナル凶荒ノ禍災ニ遭過スルモ測ル可カラス今日ニ當リ預メ其禍災ノ患ヲ免ル、ノ方法ヲ思考スル

一 儲蓄備荒法

ハ最モ官民ノ急務ナリ然ルニ人民連年ノ豐熟ニ慣レ今復之ヲ
 念頭ニ掛ケサルニ至レリ故ニ貯穀配慮ノ義ニ付昨年十二月中
 訓示致シ置候處本年ノ如キハ一部分ノ凶歉アルモ全國ニ取リ
 テハ非常ノ豐熟ナレハ各地方ニ於テハ右貯穀ノ用意目下一日
 モ忽ニスヘカラス右用意ハ或ハ臨時府縣會ヲ召集シテ備荒貯
 蓄法施行已來毎年度貯蓄金總額ノ半ヲ公債証書ニ換ヘタル他
 ノ半額ノ内現金ハ勿論預ケ金若クハ公債証書ノ賣却シ得ヘキ
 モノハ之ヲ以テ米穀ヲ買入レ其貯穀ニ便利ナル方法ヲ議セシ
 ムル等各地方ノ便宜ニ應シ精々行政處分ヲ以テ施行シ得ヘキ
 手段ヲ盡ス様致度此段訓示候也

○大藏省第八十四號府縣(沖繩縣及北達明治十七年
海道三縣ヲ除ク)十一月二十五日

備荒儲蓄配付金及中央儲蓄ヨリ補助金ノ儀ハ十七年度以降當
 省國債局ヲ經テ交付候條決算帳ノ儀ハ當省ヲ經由シ會計檢査
 院へ差出シ候儀心得ヘシ
 右相達候事

●第五款 備荒儲蓄金取扱順序

(拾遺) ○内務而省乙第二十八號府縣(沖繩達明治十三年
大藏縣ヲ除ク)十一月廿二日
 本年第三十號(正編二百〇)ヲ以テ備荒儲蓄法公布相成候ニ付
 テハ右取扱順序別冊ノ通相定候條此旨相達候事

別冊

備荒儲蓄金取扱順序

備荒儲蓄金取扱順序

四六

第一條 備荒儲蓄金ハ毎年政府ヨリ配付スルモノヲ配付金ト稱シ人民ヨリ徴収スルモノヲ公儲金ト稱ス而シテ右配付金及ヒ公儲金ヲ合セテ府縣儲蓄金ト稱スヘシ

第二條 配付金ハ前年度ノ地租豫算高ニ據リ其額ヲ定メ以テ毎年二月以前ニ達スベシ

第三條 府縣ニ於テハ配付金高ヲ以テ最下額トシ公儲金徴収ノ割合ヲ定メ而シテ其徴収期限ハ支出上差支ナキ爲メ適宜前収ノ方法ヲ設ケ府縣會ニ付スベシ

第四條 公儲金不納處分又ハ免除等ヨリ生スル欠額ハ渾テ翌年度ニ於テ一般ニ賦課シテ之ヲ補充スベシト雖モ其總額配付金ノ高ヨリ不足セサル場合ニ在テハ之ヲ補充セサルモ妨

ケナシ

第五條 地租ノ貸與金事故ナクシテ返納ヲ怠ルモノハ其筋ノ裁判ニ付スベシト雖モ不慮ノ災害ニ遭遇シ返納シ能ハサルモノハ之ヲ猶豫シ又ハ免除スルノ方法ヲ豫シメ府縣會ニ於テ議定セシムベシ

第六條 備荒儲蓄法第五條ニ依リ内務大藏兩卿へ具中スル節郡區ヲ區分シタル明細書ヲ製シ差出スベシ大藏卿ハ配付金ヲ兩度^{七月}ニ交付スベシ^{明細書ハ第一號書式ニ據リ配付金ノ頒收証書ハ第二號書式ニ據ルヘシ}

第七條 府縣儲蓄金ノ内災害其他相當ノ支出ニ充ツル爲メ現金ヲ備へ置ク共引出方ニ差支ナキニ於テハ之ヲ銀行等へ定期預ト爲スモ妨ケナシ

五六

備荒儲蓄金取扱順序

第八條 米穀ヲ貯積スル爲メ倉庫ヲ建築シ及ヒ借庫料番人給料等ニ係ル諸費用官吏郡區吏旅費ノ如キハ此限ニアラス并ニ米穀公債証書ノ賣買等ニ關スル諸雜費及ヒ損失ハ府縣儲蓄金ノ内ヨリ支辨スルノ方法ヲ設ケ豫シメ府縣會ニ付スベシ

但倉庫ヲ建築スルハ給貸等ニ支障ナキヲ計リ府縣儲蓄金ノ餘裕アルヲ待テ之ニ着手スベシ

第九條 府縣儲蓄金ノ三分ノ二前年ヨリノ概高及ヒ其年ノ儲蓄金ヲ合セタル總額ニ對シ計算スベシ以上ヲ供用支出シ中央儲蓄金ヨリ補助ヲ要スル時ハ其顛末ヲ詳記シテ內務大藏兩卿ニ具狀スベシ此場合ニ於テハ時トシテ

內務大藏兩省ノ官吏ヲ派遣シ實際ヲ查閱スルコトアルベシ

第十條 中央儲蓄金ヨリ補助ヲ要シタル時府知事縣令ハ其顛

末ヲ管下ヘ布達スベシ

第十一條 凡ソ府縣儲蓄金ヲ集儲シ分儲シ又ハ米穀及ヒ公債証

書ヲ購入シタル時ハ三ヶ月毎ニ報告書ヲ作り內務大藏兩卿ヘ差出スベシ収支科目ハ第三號ニ據リ報告書式ハ第四號ニ據ルヘシ中央儲蓄金ノ増減ハ大藏

卿ヨリ三ヶ月毎ニ新聞紙ヲ以テ之ヲ告示スベシ

第十二條 府縣儲蓄金ノ出納ハ便宜ニ從ヒ出納簿現金米穀公債証書等ノ受拂ヲ總括スルモノヲ云及內譯簿現金米穀公債証書ノ所在ヲ分チ或ハ收支ノ科ヲ製シモノヲ云目ニ據リ出納ノ內譯ヲ明カニスル帳簿ヲ云フ

置キ常ニ其會計ヲシテ明瞭ナラシムベシ

第十三條 府縣儲蓄金ノ精算ハ地方稅出納決算ノ手續ニ倣ヒ

府縣會ニ報告スベシ書式ハ第五號ニ據ルヘシ

第十四條 大藏卿ハ官吏ヲ派遣シ每歲又ハ臨時ニ府縣儲蓄金

備荒儲蓄金取扱順序

或ハ貯積米ヲ検査セシムヘキニ因リ府知事縣令ハ集儲及分
儲ノ所在並ニ米穀貯積ノ場所等ヲ三ヶ月毎ニ大藏卿ニ報告
スヘシ報告書式ハ第六
號ニ據ルヘシ

第十五條 府縣儲蓄金或ハ貯積米ノ検査ハ大藏省派出官吏ノ
便宜ニ因リ府知事縣令へ通牒セス直ニ其所在ニ就テ検査ス
ルコアルベシ尤此場合ニ於テハ派出官吏ハ大藏卿ノ命令書
ヲ攜帶スルモノトス(編者曰書式ハ府縣ノ事
効ニ係ルヲ以テ略ス)

○内務省乙第廿五號府縣沖繩縣及北
海道三縣ヲ除ク達同十五年
四月十三日
明治十三年乙第三十八號ヲ以テ相達候備荒儲蓄金取扱順序第
七條儲蓄金ヲ以テ銀行等へ定期預ケト爲ス場合ニ於テハ其預
ケ箇所ハ豫メ府縣會ニ於テ議定セシメ必ス預ケ金額ニ對スル

抵當取置候ハ勿論ニ候處右抵當ハ公債証書ニ限り候儀ト心得
ヘシ此旨相達候事

○山形縣伺明治十六年
十月九日
備荒儲蓄定期預金ニ對スル抵當品ハ公債証書ニ限ルヘキ旨
十五年乙第二十五號御省御達之趣モ有之候處要用ノ節ハ何
時ニテモ返納可致約束ヲ結ヒ全ク當分ノ無定期預ケ金タル
モ抵當ハ前號御達ノ例ニ據リ公債証書ニ限ルヘキ哉又ハ相
當ノ地所ニシテ預ケ金額ニ對シ二割以上ヲ超過シタル地價
金ヲ以充分ト見認候抵當差出候節ハ預ケ金取行差支無之哉
至急何分ノ御指揮相成候様致度此段相伺候也

九六
○内務省指令十月
六日
備荒儲蓄金取扱順序○全配付額

伺之賑抵當品ハ公債證書ニ限ル儀ト可相心得事

●第六款 備荒儲蓄金配付額

○内務省第壹號告示 明治十八年一月六日

明治十三年^{六月}第三拾壹號(正編二百〇三丁參觀)公布ニ據リ備荒儲蓄補助

金十八年度分配付額左ノ通ニ候也

但配付金交付期限ハ從前ノ通心得ヘシ

右告示候事

備荒儲蓄金

府縣配付金

一金八千九百二拾五圓

内金四千四百六十三圓
金四千四百六拾貳圓

東京府

十八年七月渡之分
十九年一月渡之分

一金壹万貳千五百貳拾八圓

内金六千二百六十四圓
金六千二百六十四圓

京都府

一金三万四千三百三拾圓

内金壹万七千六百六十五圓
金壹万七千六百六十五圓

大阪府

一金壹万二千三百四拾六圓

内金六千七百七十三圓
金六千七百七十三圓

神奈川縣

一金三万二千九百四拾壹圓

内金壹万六千四百七十壹圓
金壹万六千四百七十圓

兵庫縣

一金七千七百四拾三圓

内金三千八百七拾二圓
金三千八百七拾一圓

長崎縣

一金貳万六千五百八拾七圓

新潟縣

備荒儲蓄金配付額

一	金貳萬三千五百拾六圓	內	金壹萬三千二百九拾三圓 金壹萬二千二百九拾四圓	全全	埼玉縣
一	金貳萬千貳拾五圓	內	金壹萬千七百五拾八圓 金壹萬千七百五拾八圓	全全	千葉縣
一	金壹萬八千貳百七拾八圓	內	金壹萬五百拾三圓 金壹萬五百拾三圓	全全	茨城縣
一	金壹萬貳千八百拾三圓	內	金九千百三拾九圓 金九千百三拾九圓	全全	群馬縣
一	金壹萬貳千五百六拾三圓	內	金六千四百六圓 金六千四百七圓	全全	橡木縣
一	金壹萬貳千二百八拾二圓	內	金六千二百八拾二圓 金六千二百八拾二圓	全全	

一	金貳萬三千三百九拾五圓	內	金壹萬千六百九拾八圓 金壹萬千六百九拾七圓	全全	三重縣
一	金貳萬九千七百七圓	內	金九千六百八十三圓 金九千六百八十三圓	全全	愛知縣
一	金壹萬九千三百六拾六圓	內	金壹萬四千五百五拾三圓 金壹萬四千五百五拾四圓	全全	靜岡縣
一	金六千七百九拾壹圓	內	金三千三百九拾五圓 金三千三百九拾六圓	全全	山梨縣
一	金壹萬九千七百拾七圓	內	金九千八百五拾九圓 金九千八百五拾八圓	全全	滋賀縣
一	金壹萬七千二百七拾七圓	內	金九千八百五拾八圓 金九千八百五拾八圓	全全	岐阜縣

備荒儲蓄金配付額

四七

一金壹万五千七百九拾三圓
 內 金八千六百三拾八圓
 金七千八百九拾七圓
 一金九千六百六拾九圓
 內 金四千八百三拾四圓
 金四千八百三拾五圓
 一金壹万六千八百貳拾圓
 內 金八千四百拾圓
 金八千四百拾圓
 一金八千貳百七拾九圓
 內 金四千四百拾圓
 金四千四百三拾九圓
 一金七千四百四拾三圓
 內 金三千七百二十壹圓
 金三千七百貳拾貳圓

全全 全全 全全 全全 全全 全全 全全

長野縣 宮城縣 福嶋縣 岩手縣 青森縣

五七

一金壹万三千六百七拾四圓
 內 金六千八百三拾七圓
 金六千八百三拾七圓
 一金壹万千六百六拾圓
 內 金五千五百八拾圓
 金五千五百八拾圓
 一金壹万四百八拾圓
 內 金五千二百四拾圓
 金五千二百四拾圓
 一金壹万貳千七百五圓
 內 金六千三百五拾三圓
 金六千三百五拾貳圓
 一金壹万三千八百七拾五圓
 內 金六千九百三拾八圓
 金六千九百三拾七圓
 一金九千三百八拾八圓

全全 全全 全全 全全 全全 全全 全全

山形縣 秋田縣 福井縣 石川縣 富山縣 鳥取縣

備荒儲蓄金配付額

六七

內金四千六百九拾四圓	內金五千七百五拾二圓	內金壹方二千五拾壹圓	內金壹方五百貳拾五圓	內金四千七百貳拾八圓	內金四千七百貳拾九圓	內金六千三百三拾四圓
一金壹方千五百五圓	一金貳方四千百貳圓	一金貳方千五拾圓	一金九千四百五拾七圓	一金壹方貳千六百六拾八圓		
全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全
島根縣	岡山縣	廣嶋縣	山口縣	和歌山縣		

七七

內金五千二百拾壹圓	內金壹方二千五拾四圓	內金四千八百四拾三圓	內金四千八百四拾三圓	內金壹方千五百六拾壹圓	內金五千八百七拾八圓	內金五千八百七拾八圓
一金壹方四拾貳圓	一金貳方四千百八圓	一金九千六百八拾六圓	一金貳方三千百貳拾貳圓	一金壹方千七百五拾六圓	一金壹方千八百七拾貳圓	一金壹方千八百七拾貳圓
全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全
德島縣	愛媛縣	高知縣	福岡縣	大分縣	佐賀縣	

備荒儲蓄金配付額

八七

內 金五千九百三拾六圓
金五千九百三拾六圓

全全

熊本縣

一金壹万六千七百七拾壹圓

內 金八千三百八拾五圓
金八千三百八拾六圓

全全

宮崎縣

一金七千五百六拾六圓

內 金三千七百八拾三圓
金三千七百八拾三圓

全全

鹿兒嶋縣

一金壹万貳千七百六拾壹圓

內 金六千三百八拾圓
金六千三百八拾壹圓

全全

計金六拾七万五千圓

內 金三拾三萬七千五百圓
金三拾三萬七千五百圓

十八年七月渡
十九年一月渡

外

金貳拾貳万五千圓

中央儲蓄金大藏省管掌之分

○第七款 金穀公借共有物取扱土木起功規則欠

九七
大日本
帝國
議員必携續編畢

明治十八年三月五日御届
同年同月廿四日出版

定價 金貳拾錢

大阪府平民

編纂兼出版人 彈 舜 平

東區高麗橋三丁目
二十六番地

同 府平民

共有出版人 瀬戸清次郎

西區江ノ子島上町
一番地

賣捌 大阪唐物町四丁目四十六番地 中島徳兵衛
書林 同 備後町四丁目三十七番地 此村 彦助

